

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・二八二八

弊NPOは「憲法を改正、経済力と軍事力の両足で健全な国体を支える国家」を求めます。

《ドミニク・ブシエさん》 鉄板焼き (W都ホテル)

ドミニク・ブシエ氏はフランス ポワトゥワに囲まれて育ちました。パリの名店「トゥール・ダルジャン」「ホテル・ド・クリヨン」などで総料理長を歴任したのち、2004年に独立。レストラン「ドミニク・ブシエ」をパリ8区にオープンしました。日本では東京・銀座の「ドミニク・ブシエ トーキョー」、ビストロ「レ・コパン」、金沢「ル・ダリル ドウ ドミニク・ブシエ」、名古屋の「レ・トレフル ドミニク・ブシエ」の4軒で、ドミニクの真髄であるソースを大切にしながら、新解釈を施したフレンチをお届け！
昨年は誕生日とクリスマスイヴを過ごしましたが、家内は鉄板焼きは苦手なのですが、このお店だけはお料理が優しいから再度行きたいと！今年も、節分の訪問から始まりました。

京都国立博物館

3月27日～5月16日

《特別展 鑑真和上と戒律のあゆみ》

鑑真是中国・唐時代の高僧で律の大家として尊敬を集めました。しかし日本での戒律の整備を目指していた聖武天皇の意を受けた日本僧・栄叡、普照より懇請され、その地位をなげうち、五度の日本への渡航失敗と失明をもとめせず、六度目にしてようやく日本の地を踏みました。その後、唐招提寺を拠点に中国正統の律の教えを日本に定着させ、日本仏教の質を飛躍的に高めました。
本展では日本仏教の恩人と言うべき鑑真の遺徳を唐招提寺に伝えられた寺宝によって偲ぶとともに、戒律のおしえが日本であつた歩みを綺羅星のような名僧の活躍と関係諸寺院の名宝を綴ることでご紹介します。

私の本棚 おすすめの一冊

粉川 剛

《財政赤字の神話/ステファニー・ケルトン著》

本年1月、緊急事態宣言が東京、大阪等を対象に再発令された。営業時間の短縮や不要不急の外出の自粛を求めるもので経済への影響は極めて大きい。国民からは手厚い経済支援が求められているが政府は財政の悪化を理由に及び腰である。MMTの理論では日本の財政破綻は有り得ない。本書の序文で「日本に今求められるのは必要とされる財政支援をすべて実施していくという確固たる決意だ。MMTのレンズを十分に活用すれば日本はコロナショックから完全な回復を遂げ、さらに経済停滞との長い戦いによりやく終止符を打てるだろう。そのためには新政権は財政赤字削減への執着を完全に捨てなければならぬ。ほかの通貨主権国と同じように、日本にとって重要なのは政府の予算が赤字か黒字かではない。国民にとつてバランスのとれた公平な経済を実現するためには、予算が使われているかどうかだ」と述べている。

土口哲光和尚の説法

《「忍」の一字からの功德》

立春に合わせるかのように梅の花が。「梅一輪一輪ずつの温かさ」で、寒気をもとせず、自身を鍛えている。コロナ禍で「進んで行いや態度を改め、つつしむ」の「自粛」から巣ごもりにも梅花の高い香りが忍び寄る。騒然の時節柄、信仰する観音妙智に一心に名前を呼び、念称するむろん、希望が叶えられるときもあれば、そうでないときもある。ではどうしてだろうか、と謙虚に反省する。必ず思い当たる節がある。煩惱にさへぎられていたから。願いが身勝手すぎる。世の中を恨み、彼の仕打ちに腹を立てていた自業自得である。蒔いた種は自分で刈り取るのである。観音経は失意のときにどう生きればよいか。刃の下に心と書く「忍」の一字で、その徳を教える。

季節の家庭料理

田村真紀

《三月 長芋入り青椒肉絲》

《作り方・四人分》

豚ロース肉二百五十グラム・ピーマン四個・長芋百八十グラム・☆(酒大匙一・醤油小匙一・塩コシヨウ少々・溶き卵一個)片栗粉大匙一・ゴマ油大匙一・◎(醤油・酒各大匙二・オイスターソース大匙一・砂糖小匙一・コシヨウ少々・鶏ガラスープ大匙二・水溶き片栗粉大匙二)・油適量
ピーマンは細切りにして熱湯に通す。長芋は皮を剥き、ピーマンと同じ長さの細切りにする。豚肉は細切りにし☆を揉みこんで下味をつけ、さらに片栗粉、ゴマ油を揉みこむ。熱して油をひいた中華鍋で豚肉を強火でほぐしながら炒める。肉の色が変わったらピーマンと長芋を加え、よく混ぜ合わせた調味料◎を加えさつと炒め合わせる。

つれづれの記

山崎辰巳

《五輪か、コロナ対策か、その優先順は?》

56年ぶり2回目の日本開催となるはずの東京オリンピック。すでに一年延期して本年開催の予定だが、国内はもとより海外からも疑問視する論調が多くなってきた。
一方、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからず、逼迫する医療現場は疲弊の影響を受けて廃業や失職に追いやられる事業者への救済や補償も十分とはいえない。
人類の祭典としての五輪か、人類の生命を護るコロナ対策か、どちらを優先すべきか。問うまでもなく自明の理である。五輪は一旦延期できても、コロナ対策は先送りできない喫緊の課題だ。出場予定のアスリート達にも理解を求めつつ、勇気ある撤退を決定し、国政の手柄話に押し切られてはならない。